

蔵王縦走

蔵王を縦走したことが二度ある、エコーライン傍の登山口から南側の硯石までのコースがあるが、北側からと、南側からの二回縦走した。

一回目はアマチュア無線友達の小川七三さんと、七ヶ宿の旅館に泊り、次の日バスに乗り、蔵王連峰の南端、長老湖より約二キロ北側の硯石で下車、縦走に入った。

此処はキャンプ場で、何年か前仲間と芋煮会した所だ。蔵王縦走は私も妻も初めての経験であった。南蔵王の頂上から峰伝いに、エコーラインまでの、起伏に富んだ道程で、険しい場所もあるが、若い人なら四〇五時間で踏破する。あの時は風もなく穏やかで快適だったが、私達は八時間近くかかった。

トランシーバーを持って行ったので、到着する一時間位前に矢附の義弟に連絡し、迎えに来てもらった。義弟常世さんも、アマチュア無線の免許を私の講義した講習会で取得していたので都合よかった。矢附でご馳走になり仙台に帰った。楽しい二日間だった。

それから三年後、前と反対の道程でエコーラインから硯石までを踏破した。参加者は友人の阿部新二さん、お巡りさんの高瀬さん、それに小川さん、私と、妻の五名、義弟と、山の人の信二郎さんに出発点まで送って貰った。

全員アマチュア無線の免許を持っている。それぞれ愛用のトランシーバーを携帯、阿部さんは自動車用のバッテリーと十ワットの無線機を背負い、八木アンテナを一米位の棒に取付け、左手にアンテナ右手にマイクだ。他は各自一ワットの携帯用の無線機を肩に掛け、南蔵王登

山口を出発した。

前山、杉ヶ峰、芝草平、屏風岳と続く。風もなく穏やかで、快適だ。アマチュア無線は東北地方ばかりでなく、関東地方、新潟まで届く。ハアハア歩きながら、皆大勢のアマチュア仲間と交信、ご機嫌だった。阿部さんは八木アンテナと十ワットだから、もっと遠くまで届く。伊豆大島のアマチュアと交信したと言っていた。

杉が峰付近に来ると険しい登山道になる、南屏風岳の間は最も体力を要する。妻はとうとうダウンしてしまった、「私を置いて行って下さい」と言う始末で、昼食を取り、休み休み何とか労りながら、不忘山に辿り着いた。此処からは比較的楽な下りコースだ。

不忘山より少し下った所に、不忘の碑がある。第二次大戦の末期に米軍のB29が二機、不忘山に激突し、多くの米軍兵士が、異国の地に散ったのを悼み、米軍兵士達への追悼と、平和記念の碑である。刻まれた碑文に深く感銘を受けた、もう一度記念碑まで硯石からでも行きたいが、この年では無理だろう。

下り道を約一時間で終点に着き、迎いに来てもらった義兄と義弟の車に乗せられ、無事矢附に着いた。

縦走は南から出発した方が北からの縦走より楽だったのだろうか。妻がバテたのは、杉が峰付近の登りがきついのと、あれから三年過ぎていて、体力的にも幾らか衰えて居たのだろう。

妻は「苦しくて死んでも良いと思った」とあの時を思い出して話している。若かりし時代の爽やかな記憶が甦り涙ぐむ。本当にいい経験だった。